

司式 熊田雄二牧師

奏楽 森永美保姉妹

前 奏

開 会 招 詞

* 賛 美 歌 13:1 よろずのものとわにしらす

よろずのものとわにしらす御父よ 今恵みをくだしたまえ

御名をほむるわれらに アーメン

* 開 会 祈 禱

罪 の 告 白 祈禱書2 罪の告白①

神よ、わたしを憐れんでください。御慈しみをもって。深い御憐れみをもって、背きの罪をぬぐい去ってください。わたしの咎をことごとく洗い、罪から清めてください。わたしは咎のうちに産み落とされ、母がわたしを身ごもったときも、わたしは罪のうちにあったのです。わたしを洗ってください。雪よりも白くなるように。神よ、わたしの内に清い心を創造し、新しく確かな霊をさずけてください。救いの喜びを再びわたしに味わわせ、自由の霊によって支えてください。主よ、わたしの唇を開いてください。この口は、あなたの賛美を歌います。 主イエス・キリストの御名によって。アーメン。 (詩編51)

罪の赦しの宣言

十 戒 祈禱書4

1. あなたは、わたしのほかに、何者をも神としてはならない。
2. あなたは自分のために刻んだ像を造ってはならない。それにひれ伏してはならない。それに仕えてはならない。
3. あなたは、あなたの神、主の名を、みだりに唱えてはならない。主は、み名をみだりに唱える者を、罰しないではおかない。
4. 安息日をおぼえて、これを聖とせよ。
5. あなたの父と母を敬え。
6. あなたは殺してはならない。
7. あなたは姦淫してはならない。
8. あなたは盗んではならない。
9. あなたは隣人について偽証してはならない。
10. あなたは隣人の家をむさぼってはならない。隣人の妻、またすべて隣人のものをむさぼってはならない。 (出エジプト20、申命記5)

* 賛 美 歌 13:2 人となりし救いの御子

人となりし救いの御子主イエスよ

とき剣の御言葉もて 示したまえ まことを アーメン

公 同 の 祈 禱 祈禱書32 定期会員総会主日

教会のかしらイエス・キリストの父なる神さま、きょうは定期会員総会の日です。わたしたちが

キリストの教会に、愛と奉仕と献げものにおいて最善を尽くすことができるように導いてください。わたしたちの願いや祈りを、わたしたちの無知による求めではなく、わたしたちの罪深さが要求することによってでもなく、ただ御心にならなう受け入れてください。(マタイ6、1コリント8～9、「誓約」五)

献 金 (黒) 教会活動 (赤) 東部中会中高生キャンプ 70

今献ぐるそなえものを 主よ 清めて受けたまえ アーメン

洗 礼 式

《子どもプログラム 3階小礼拝堂 根岸めぐみ姉妹・門脇陽子長老担当》

聖 書 朗 読 ルカ福音書19章1～10節 (新約聖書146頁)

説 教・祈 禱 「この人もアブラハムの子」 熊田雄二牧師

* 賛 美 歌 95:1 冷たい罪の道を

冷たい罪の道をさまよっていた時
主イエスは愛の御手で 私を救われた
主の愛は私を慰め 日々喜びを満たす
私の生活は御手によって 日々導かれる
やがては御国の家に住み
すばらしい恵みにあずかるだろう
私の生活は御手によって 日々導かれる 日々導かれる

* 主 の 祈 り 祈 禱 書 1

天にまします我らの父よ
願わくは御名をあげさせたまえ
御国を来たらせたまえ 御心の天になるごとく 地にもなさせたまえ
我らの日用の糧を 今日も与えたまえ
我らに罪を犯す者を我らが赦すごとく 我らの罪をも赦したまえ
我らを試みに会わせず 悪より救い出したまえ
国と力と栄えとは 限りなく汝のものなればなり アーメン。

* 頌 栄 65 父・御子・御霊のおお御神に

父・御子・御霊のおお御神に
ときわに絶えせず 御栄えあれ 御栄えあれ アーメン

* 祝 禱

後 奏 (黙禱)

報 告 古澤兵庫長老 (司会・受付 次週：門脇献一長老)

本日 受付 1階：佐藤紀子・加藤良明執事 2階：若月学執事 / ZOOMホスト・録音：大日南信也

次週 受付 1階：藤井牧子・大日南隆夫執事 2階：大日南信也執事 / ZOOMホスト・録音：門脇光生

※ 2グループ制により、長老も1階と2階に一名ずつ加わります

I メッセージポイント

あと2回、ルカ福音書だけにある話を扱いますが、きょうは「ザアカイの話」です。小見出しは「徴税人ザアカイ」とあるので、ああ、あの話かと、特に子供の時に教会学校や家庭で聖書物語に親しんでいた人にはすぐ分かるくらいよく知られた話です。

しかし、講解説教で改めて考えてみると、このよく知られた話は、ルカ福音書にしかないのです。特にマタイ福音書にはなぜないのか、ちょっと不思議です。マタイは同じ徴税人でした。しかもこの現場にいた人です。ルカは現場にいた人からのまた聞きです。

マタイがなぜ書かないのか、想像すると、同じ徴税人でいやだったとか、変にうがった見方をしてしまいそうです。「徴税人と罪人」は、よくセットで出てくるフレーズですのでいやだったとか、あるいは、ザアカイは徴税人の中でも悪どい金持ちだから、あんな奴と一緒にしないでくれ、という思いもあったかもしれません。

このように、書いてない事、分からないことを言おうとすると「かもしれません」という推測や憶測の域を出ないスペキュレーションになります。そこで、書いてあることから想像すると、ルカが書いている意図は何かと考えることになります。

すると、少し前に、似たような言い方があったのを思い出します。13章10節に「安息日に腰の曲がった婦人をいやす」という小見出しがあるところですが、この婦人のことを、イエス様は最後に「この女はアブラハムの娘なのに」と言われました。

きょうのところでは、イエス様は最後に「この人もアブラハムの子なのだから」と言われました。よく似た言い方です。そしてここにメッセージのポイントがあります。小見出しは「徴税人ザアカイ」ですが、メッセージの本質は「この人もアブラハムの子」にあります。小見出しは、ああ、あのザアカイの話かと場面を導いてくれますが、メッセージポイントはイエス様の言葉の中にあるのです。

II ザアカイという人

さて、ザアカイの話ですが、ザアカイという人をルカはどのように書いているか、正確に見てみましょう。まず2節「この人は徴税人の頭で、金持ちであった」とあります。「徴税人の頭」ですから、上級公務員と言えます。だから金持ちだったのか、もともと金持ちだったのかは分かりません。しかし、「徴税人の頭」ですから、よけい悪人と見られていた節もあります。人々は、7節で「あの人は」とイエス様のことを言って、「罪深い男のところに行って宿をとった」とつぶやきました。つぶやいたのは「これを見た人たちは皆」でしたから、町中の嫌われ者であることが分かります。徴税人というだけでも嫌われるのに「徴税人の頭」ですから、よけい「罪深い男」と見られていたわけです。

税金取りが嫌われる理由は、ローマ帝国の法律以上に取り立てて残りを自分のふところに入れる、そういう人が多かったので、「徴税人や罪人」と一緒くたにして言われるわけですが、ザアカイはその徴税人の頭なのです。また、ユダヤ人から税金を取ってローマ帝国にささげることは売国奴に等しい、ユダヤ人じゃないとみなされていました。今ウクライナの役人がウクライナ人から税金を取って、それをロシアにささげたら、同じように見

なされるでしょう。

Ⅲ 急いで降りて来なさい

さて、ザアカイは、イエス様のお通りだということで、一目見ようと思いました。チビだったので見えません。それで先回りして木に登りました。私もチビですから、もしそこにいたらそうするでしょう。そして、イエス様一行が通り過ぎようとした時、なんと、イエス様の方から声がかかりました。

「ザアカイ、急いで降りて来なさい。きょうは、ぜひあなたの家に泊まりたい。」「ザアカイ」と、自分の名前を知っておられるのに、まず驚いたでしょう。一度も会って話したこともないのに。そして「きょうは、ぜひあなたの家に泊まりたい。」と言われたので、もっと驚いたでしょうが、喜んでイエス様を迎えました。

よく予約なしで泊まれるものだと思うかもしれませんが、宗教に専念している人たちをもてなすことが、ごく当然な時代、場所であることを思わせます。またザアカイは金持ちなので、イエス様一行を迎えるだけの大きな家を持っていたのでしょう。

さて、人々はつぶやいて悪口を言いましたが、ザアカイはイエス様に言いました。「主よ、私は財産の半分を貧しい人々に施します。また、誰かから何かだまし取っていたら、それを四倍にして返します。」

この言い方からすると、ザアカイには「だまし取っていた」という認識はないです。だまし取るのが徴税人という風潮の中で、正当にローマ帝国の税金取りの仕事をしているという認識です。それでも、頭が知らない所で、部下が何かだまし取るということがあったかもしれません。それがあつたら当然の償いをします。4倍にして償います、と言いました。決して、部下がやったんだ、自分ではないとは言いません

その前に「主よ、私は財産の半分を貧しい人々に施します。」とザアカイは言いました。ここに、税金の精神と献金の精神とは相通ずるものがあります。多く与えられた者は多く施す、という点です。これはいつの時代でも同じです。無理やり平等にするという20世紀の共産主義の実験は失敗に終わったことを、人類は体験しました。そうすると、改めて自由主義競争の社会では税金がとても大事なこととなってきます。脱税は自由主義社会を根底から揺るがす最も重い犯罪です。

Ⅳ この人もアブラハムの子

さて、ザアカイの言ったことに、イエス様は「本当か？」とは言わずに「きょう、救いがこの家を訪れた。この人もアブラハムの子なのだから」と言われました。アブラハム契約をもう一度思い起こしましょう。

アブラハムはイエス様の時代から2000年前の人です。ダビデ王は1000年前の人です。ですから、マタイ福音書の始まり「アブラハムの子、ダビデの子、イエス・キリストの系図」は、1000年単位で分かりやすいです。「アブラハムの子」とは約束の子孫、「ダビデの子」とは救い主メシアのことです。アブラハム契約の「約束の子孫」も単数形なら救い主キリストのことです。複数形ならキリストに連なる約束の子孫たちのことです。

子供が一人もいなかったアブラハムに、主なる神は約束されました。「あなたの子孫は星の数ほど多くなる。」ところが、やっと生まれた独り子イサクを「いけにえとして献げ

よ」と言われました。しかし、いけにえとして献げる瞬間、天から「待て」の声がかかり、いけにえの羊が現れ、イサクの身代わりとなりました。

それは、やがて、神の独り子がいけにえとして献げられることを教えるためでした。ですから、「アブラハムの娘」にはキリストの命がかかっていたほど尊い命であったのと同じで、「アブラハムの子」にはキリストの命がかかっているのです。チビのザアカイにはイエス・キリストの命がかかっているほど大きい恵みが与えられました。

それは、ザアカイが「私は財産の半分を貧しい人々に施します」と言ったからではありません。それではザアカイの善い行いが救いの根拠となってしまいます。ザアカイの功績、ザアカイのいさおが根拠になってしまいます。

イエス様は言われました。10節「人の子は、失われたものを捜して救うために来たのである。」「人の子」はキリストの称号ですから、「私は失われたものを捜して救うために来た」と言われたのです。ザアカイも、失われた一匹の羊でした。無くした一枚の銀貨でした。いなくなっていたのに見つかった放蕩息子でした。

きょうは洗礼式が行われたので、空にまた「アブラハムの子」が一つきらめきました。「ザアカイ、急いで降りて来なさい。きょうは、ぜひあなたの家に泊まりたい。」と言われたことが実現しました。私たちは一目見ようとしますが、イエス様はずっと前から見ておられて名前まで知っています。そして「ぜひあなたの家に泊まりたい」と、悔い改めて信じた者の心に住んでくださいます。

イエス・キリストを信じるなら、キリストの命がかかっているほど尊い命とされます。「アブラハムの子、アブラハムの娘」と言われます。きょうも戦争や疫病で暗い世の中ですが、闇の中で輝く星が、また一つ増えました。きょうも世界中の教会で礼拝がささげられているので、アブラハム契約の星がたくさんきらめいています。この世の国々を貫いて、神の国が完成に向かって前進しています。